



# のとちょう 議会だより

発行：能登町議会 発行日：平成22年11月1日 編集：能登町議会広報編集特別委員会



## 9月議会の内容

第24回猿鬼歩こう走ろう健康大会 町内外で約1300人が参加  
撮影日：9月19日（日）

●一般質問 P 2- 4 ●決算認定 P 5 ●議案質疑 P 6- 7 ●委員会報告 P 8

平成22年第3回能登町議会定例会は、9月6日から15日までの10日間の日程で開催されました。

6日には、報告1件、議案10件、認定14件が上程され、議案質疑が行われ常任委員会、決算特別委員会へ付託されました。

13日及び14日には町政一般質問、15日には採決が行われ、報告1件は原案のとおり承認、議案10件は原案のとおり可決、認定14件は原案のとおり認定されました。追加議案で上程された議案2件、発議2件は原案のとおり可決されました。

# 第22号

# いっぱん質問



榎原安弘 議員

## 問 通年議会の導入を

ここ2年ほど前から議会改革の一環として、議会活性化を図るため、会期を定めずに議会を開く通年議会の導入が全国の一部の町等で実施されている。通年議会とは、その年の一月に議会が召集され、会期は十二月までの一年間とし、三月、六月、九月、十二月に再開し、緊急の場合は、いつでも議会を開くことが出来るものである。今の時代スピードが重要である。住民の請願や陳情な

ど、その都度対応する必要がある。住民サービスにも繋がるため、通年議会の導入を提案する。

## 答 議会の中で十分な議論を

町長 議会の通年化の利点として、議員提出議案がいつでも提出・受理でき、また召集の必要がないことから、緊急時の対応が可能である。議会内で十分議論していただきたい。

## 問 自主防災組織の結成を

住民がお互いに助け合い、励まし合う相互互助の精神に基づいて自主的

な防災活動を行うことにより、地震・火事・風水害等の災害による被害の防止及び被害を最小限にとどめるように、平常から万全の備えをしていく必要があると考える。災害は、何の前触れもなく襲ってくるため、日ごろから自主的な防災訓練や防災に関するノウハウを体で覚えていく必要があるため、自主防災組織の結成を進める必要があるのではないか。

## 答 組織の結成、組織力の向上に取り組み

町長 国や県のほうでは、自主防災組織の施策を積極的に進めている。町としても組織の結成、組織力の向上に取り組んでいきたい。自主防災組織の大切さ、重要さを重点において進めていきたい。



酒元法子 議員

## 問 河道内樹木の管理は

河川敷に群生して河川の水流を阻害し、大規模洪水の遠因や、流木による二次被害の対策について、能登町特有の風土や環境を生かした適切な管理が出来ないか。

町長 町では、建設業協会と連携しながら毎年春先に河川パトロールを実施し、維持管理に努めて

## 答 交付金等を活用した河川管理の実施

いるところでもある。また、交付金を活用して、41ヶ所で1万5千立方メートルの堆積土砂を撤去し、それにあわせて、河川敷内に繁茂した樹木についても伐採処分したが、近年耕作放棄地等の増加により河川に土砂や流木の流出が増加しており、町単独費では限度がある。

河川愛護などを通じて、地域の協力も頂きながら除去することが重要と考えている。



河川内の堆積土砂除去作業



志幸松栄 議員

## 問 議員定数 議員歳費

能登町の財政を顧みて、町長としてどのよう  
にこの問題を考えている  
のかたどしたい。

**答** 議会で判断すべき  
であると考えている

**町長** 議会議員定数は、  
意思決定機関である議会  
の皆さんが、判断すべき  
と考えている。議員歳費  
については、町の財政再  
建の集中改革期間の三年  
間理解と協力をもらっ  
た。議員報酬についても  
県下19市町で最も低いも  
のであり、行財政改革に

理解と協力をもらって  
いるものと理解している。

## 問 庁舎問題

議会庁舎に関し、今後  
の執行者の考えは。

**答** 行財政改革を進  
め、簡素で効率的な  
行政運営を

**町長** 庁舎に関する課題  
については、緊急性や事  
業費を勘案すると、行財  
政改革を進め、職員数削  
減や、あるいは行政組織  
を見直し、簡素で効率的  
な行政運営に配慮し、当  
面は既存施設を利活用す  
ることで対応していける  
と考えている。  
議会庁舎に関しても、  
そういった過程の中で取  
り組んでいきたい。

## 問 町長としての 考えは

能登町で事業仕分け  
チームの発足はあるの  
か。

**答** 毎年事業ヒアリン  
グを行っている

**町長** 今後のまちづくり  
に関しては、平成18年能  
登町第一次総合計画を最  
も上位の位置だと思っ  
ている。それに従って行  
っていく。  
事業仕分けに関して  
は、毎年事業のヒアリン  
グを行い、町としては決  
して無駄な事業を行っ  
ていないと考えている。  
我々がしなければいけ  
ないことは、町民が望んで  
いることを特に優先して  
やっていかなければと考  
えている。



山本一朗 議員

## 問 宇出津地区 開発の今後の 予定と計画は

宇出津地区開発では、  
残りの部分は駅前と梶川  
橋周辺と認識している

が、梶川橋周辺工事は、  
あばれ祭りに不都合はな  
いのか。駅前周辺につい  
ては、財政面での理由で  
公民館移転が実現しな  
かったと思うがどうか。  
駐車場が増える駅前  
に、公民館を移転させ  
るべきではないか。

**答** あばれ祭りに支障は  
ない

**町長** 梶川橋架け替えの

設計は完成しており、来  
年度に着手する予定であ  
る。あばれ祭りの進行を妨  
げない工程で計画を進め  
るつもりである。駅前へ  
の公民館移転案について  
は将来対応可能ならと思  
うが、今は駐車場整備に  
留め、バス待合所や観光  
情報拠点を充実させてい  
きたい。

## 問 C A S 冷凍 工場で産業の 活性化を

採れたて、作りたての  
味をそのままにして冷凍  
する技術「C A S 冷凍」  
が話題になっているが、  
この冷凍工場を町で建設  
し、農林水産業を中心と  
した「食の産業」創出が  
町の雇用創出に繋がって  
いくと考えるが。また、  
農林水産業・食品産業・  
議会など関係者で一緒  
に、C A S 技術を見に行

くことを来年度事業に盛  
り込んでみてはどうか。

**答** 民間気運の高まり  
に期待する

**町長** C A S 冷凍技術は  
素晴らしい価値のあるも  
のと聞いているが、建設  
費が大きいこともある。  
議員提案の行政と民間が  
一緒にその技術と成果を  
視察し、民間気運が高ま  
れば、その時点で検討し  
たい。

### 【C A S 冷凍とは】

従来の「冷凍」システムとは異なる理論体系から  
開発された新しい「凍結」技術。凍結しても細胞が  
破壊されず、解凍後も鮮度が保てる技術。

お菓子、加工食品、鮮魚など素材に応じた凍結・  
保管・解凍機能が開発されている。



奥野 清 議員

## 問 子ども議会の 総括と検証

8月に開かれた「子ども議会」で質問のあった内容について、総括と実現へ具体的な考えを。その質問の中にあつた特色ある能登町づくりには、「これだけは誰にも負けないぞ」という熱意を持った人材の育成は欠かせないと思うが。

**答** 子ども議会は今後も継続していきたい

**町長** 子ども議会は、能登町としては初めての試



子ども議会で柳田中学校1年生20人が質問

みであつたが、実施してよかつたと思う。来年度以降も継続していきたい。県道宇出津町野線などの通学路の安全対策ということだが、歩行者や自転車で通学する生徒の安全確保が最優先の課題である。整備中であるが早期完成するよう県当局に要望していく。特色ある能登町にするためには、どういうことが必要なのか、ある一つのことには誰にも負けないといった人材など、どういった人材育成が必要か

もう一度考え、今後の能登町の発展に生かしていきたい。

合鹿碗など町の伝統工芸品は、町として、しっかりPRしていきたいと考えている。

植物公園を観光拠点としてハード面での整備など今後の利活用は、基本的には指定管理者に一任しているが、現在ハード的に建物を建てるという考えではなく、今のままの状況で管理していきたいと考えている。

## 問 民間人も交えた 課長会議を

役場内の課長会議終了後に、民間人を交え、意見交換が出来る場を作ってみてはどうか。

**答** 現況は役場内部で月一回開いている

**町長** 課長会議は月一回第一月曜日に開催している。組織としては、三役各課長、教育委員会事務局長、宇出津総合病院の事務局長、奥能登広域圏消防署長を含めた21人で構成している。縦割り行政の弊害を少しでも解消するため各行事予定など協議を行っているのが現状である。

### その他質問者

- 奥成 壮三郎 議員
- 河田 信彰 議員
- 向峠 茂人 議員
- 鶴野 幸一郎 議員
- 鍛冶谷 眞一 議員
- 大谷内 義一 議員

## 新しい能登町議会議員決まる！

去る10月24日(日)能登町議会議員選挙が行われ、現職13人、元職3人、新人2人が当選されました。(任期は11月1日から4年間)

### 能登町議会議員選挙

氏名	ふりがな	年齢	住所
金七祐太郎	きんしちゆうたろう	45	松波
酒元法子	さけもとのりこ	66	宮地
奥成壮三郎	おくなりそうざぶろう	54	小木
久田良平	ひさだりようへい	60	宇出津山分
小路政敏	しょうじまさとし	66	越坂
國盛孝昭	くにもりたかあき	61	柳田
鶴野幸一郎	つるのこういちろう	66	宇出津
宮田勝三	みやたかつぞう	61	藤ノ瀬
市濱 等	いちばまひとし	62	新保
向峠茂人	むかいとうげたかと	61	当目
河田信彰	かわたのぶあき	38	藤波
志幸松栄	しこうしょうえい	62	宇出津
椿原安弘	つばきはらやすひろ	68	時長
山岸昭夫	やまぎしあきお	61	笹川
鍛冶谷眞一	かじやしんいち	62	宇出津
新平悠紀夫	しんひらゆきお	69	宇出津
大谷内義一	おおやちぎいち	80	合鹿
南 正晴	みなみまさはる	49	鈴ヶ嶺

# 平成21年度決算認定について

平成22年第3回能登町議会定例会において付託された認定第1号から認定第14号までの14件について、決算特別委員会の大谷内義一委員長より委員長報告があり、質疑、討論をし、起立全員で認定されました。

## 〔委員長報告〕

去る9月6日「決算特別委員会」に付託されました、認定第1号から認定第14号までの能登町における平成21年度の各会計14件の歳入歳出決算審査の結果をご報告いたします。

まず、審査の経過といたしましては、9月7日以降、5回の委員会を開催し、決算書及び主要施策の成果説明書をもとに、執行された内容について各担当課から説明を受け慎重に審査をいたしました。その結果、各会計とも全会一致で決算はそれぞれ認定すべきものと決定いたしました。

なお、審査過程で議論されたことにつきまして、今後の課題、改善事項として次のとおり申し上げます。

まず、財政面の概要として経常収支比率、起債制限比率、実質公債費比率は依然として高水準に

あるが、いずれも改善がみられ評価に値するものであります。

歳入では、町税収納率向上のための地道な努力はもとより、収入未済額の解消及び不納欠損処理について、納税している住民との公平感を保つため、法に基づき適正に処理することを強く求める。特に不納欠損処理を行う場合においては、課税と処分の方法に充分な注意をするとともに、滞納処分審議会の有り方の改善を求める。

また、国営農地開発事業の負担金については、早急な処理に努め、必要に応じて物納などの検討を求める。

また、公共下水道、農業集落排水事業、漁業集落排水事業において、接続率の低い地区があることで、接続率を上げることが結果として住民負担の減少に繋がることを周知

し、接続率の向上に努められたい。

次に、企業会計において、水道事業会計については、漏水の防止を計り有収率の向上に努力されたい。

また、病院事業会計については、公立宇出津総合病院の役割は、地域の基幹病院としての機能を果たすことはもとより、採算性などの面から民間医療機関による提供が困難な医療の提供である。救急など不採算部門、地域医療にあたる医師・看護師確保対策など真に必要な公立病院として持続可能な経営を目指し、提供すべき医療の確保、提供のためには、一般会計からの所定の繰出し後、「計上黒字」の達成に向け更なる経営努力を図られたい。

その他一般事項として、2011年7月にアナログ放送からデジタル

放送に移行するテレビ放送について、視聴者保護の観点から町民への更なる周知を図られたい。

また、携帯電話不感地域解消に努められたい。

また、町有地について、国定公園九十九湾は町の貴重な観光資源であり、魅力ある観光地づくりのためにも関係機関と協議し、廃船処理に努めるなど町の財産を守ることはもとより、遊休土地、特に宇出津新港公有地の有効活用のため、多方面から意見を求めるなど、新たな発想の基での企画立案を望む。

以上、今後より一層行財政改革に取り組み、審査の結果が町民目線に立った予算編成や行政執行に活かされることを強く望み、委員長報告といたします。

認定第1号 平成21年度能登町一般会計歳入歳出決算

認定第2号 平成21年度能登町有線放送事業特別会計歳入歳出決算

認定第3号 平成21年度能登町国民健康保険特別会計歳入歳出決算

認定第4号 平成21年度能登町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算

認定第5号 平成21年度能登町老人保健特別会計歳入歳出決算

認定第6号 平成21年度能登町介護保険特別会計歳入歳出決算

認定第7号 平成21年度能登町観光施設特別会計歳入歳出決算

認定第8号 平成21年度能登町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算

認定第9号 平成21年度能登町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算

認定第10号 平成21年度能登町漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算

認定第11号 平成21年度能登町浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算

認定第12号 平成21年度能登町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算

認定第13号 平成21年度能登町水道事業会計決算

認定第14号 平成21年度能登町病院事業会計決算

認定第1号 平成21年度能登町一般会計歳入歳出決算

認定第2号 平成21年度能登町有線放送事業特別会計歳入歳出決算

認定第3号 平成21年度能登町国民健康保険特別会計歳入歳出決算

認定第4号 平成21年度能登町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算

認定第5号 平成21年度能登町老人保健特別会計歳入歳出決算

認定第6号 平成21年度能登町介護保険特別会計歳入歳出決算

認定第7号 平成21年度能登町観光施設特別会計歳入歳出決算

認定第8号 平成21年度能登町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算

認定第9号 平成21年度能登町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算

認定第10号 平成21年度能登町漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算

認定第11号 平成21年度能登町浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算

認定第12号 平成21年度能登町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算

認定第13号 平成21年度能登町水道事業会計決算

認定第14号 平成21年度能登町病院事業会計決算

認定第1号 平成21年度能登町一般会計歳入歳出決算

認定第2号 平成21年度能登町有線放送事業特別会計歳入歳出決算

認定第3号 平成21年度能登町国民健康保険特別会計歳入歳出決算

認定第4号 平成21年度能登町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算

認定第5号 平成21年度能登町老人保健特別会計歳入歳出決算

認定第6号 平成21年度能登町介護保険特別会計歳入歳出決算

認定第7号 平成21年度能登町観光施設特別会計歳入歳出決算

認定第8号 平成21年度能登町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算

認定第9号 平成21年度能登町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算

認定第10号 平成21年度能登町漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算

認定第11号 平成21年度能登町浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算

認定第12号 平成21年度能登町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算

認定第13号 平成21年度能登町水道事業会計決算

認定第14号 平成21年度能登町病院事業会計決算

認定第1号 平成21年度能登町一般会計歳入歳出決算

認定第2号 平成21年度能登町有線放送事業特別会計歳入歳出決算

認定第3号 平成21年度能登町国民健康保険特別会計歳入歳出決算

認定第4号 平成21年度能登町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算

認定第5号 平成21年度能登町老人保健特別会計歳入歳出決算

認定第6号 平成21年度能登町介護保険特別会計歳入歳出決算

認定第7号 平成21年度能登町観光施設特別会計歳入歳出決算

認定第8号 平成21年度能登町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算

認定第9号 平成21年度能登町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算

認定第10号 平成21年度能登町漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算

認定第11号 平成21年度能登町浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算

認定第12号 平成21年度能登町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算

認定第13号 平成21年度能登町水道事業会計決算

認定第14号 平成21年度能登町病院事業会計決算

## 〔認定された議案〕

- 認定第1号 平成21年度能登町一般会計歳入歳出決算
- 認定第2号 平成21年度能登町有線放送事業特別会計歳入歳出決算
- 認定第3号 平成21年度能登町国民健康保険特別会計歳入歳出決算
- 認定第4号 平成21年度能登町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算
- 認定第5号 平成21年度能登町老人保健特別会計歳入歳出決算
- 認定第6号 平成21年度能登町介護保険特別会計歳入歳出決算
- 認定第7号 平成21年度能登町観光施設特別会計歳入歳出決算
- 認定第8号 平成21年度能登町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算
- 認定第9号 平成21年度能登町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算
- 認定第10号 平成21年度能登町漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算
- 認定第11号 平成21年度能登町浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算
- 認定第12号 平成21年度能登町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算
- 認定第13号 平成21年度能登町水道事業会計決算
- 認定第14号 平成21年度能登町病院事業会計決算

## 6月議会で一般質問、9月議会にて議論、予算成立

子どもを守るヒブワクチン接種費助成、子宮頸がん予防接種費助成の概要  
ヒブワクチン接種費の全額助成は、県内で能登町が初めて！

### 1. ヒブワクチン接種助成事業（一般質問者 山本一朗議員）

#### 1) ヒブワクチンとは？

ヒブは「インフルエンザ菌b型」という細菌によっておこる重症感染症。  
季節性インフルエンザなどとは全く別なもの。  
感染によって、水頭症や脳性マヒなどを発症することもあり、死亡、後遺症を残す例がある。

#### 2) ワクチン対象者

生後2ヶ月から5歳未満の子ども。  
※接種回数は、ワクチンの初回接種時の生まれてからの月数、また年齢によって異なる。

#### 3) 助成の方法

医療機関で支払った金額（全額）を還付する。  
助成金の申請には、①医療機関の発行した領収書、②印鑑、  
③振込先が必要となります。  
申請期限は、最終接種日の翌月の初日から数えて6ヶ月以内。

### 2. 子宮頸がん予防ワクチン接種助成事業（一般質問者 鶴野幸一郎議員、酒元法子議員）

#### 1) 子宮頸がん予防ワクチンの効果

子宮頸がんの発生には、HPV（ヒトパピローマウイルス）が関係しているといわれている。

#### 2) ワクチン接種対象者

小学校6年生から中学校3年生の女子  
※接種回数は、初回接種から1ヵ月後、6ヵ月後の3回接種。

#### 3) 助成の方法

医療機関で支払った金額（全額）を還付する。  
助成金の申請には、①医療機関の発行した領収書、②印鑑、  
③振込先が必要となります。  
申請期限は、最終接種日の翌月の初日から数えて6ヶ月以内。



上記助成事業についての問い合わせは、

○能登町健康福祉課 TEL 72-2504

※上記助成事業の議会での議論については、7ページの『議案をチェック』のコーナー、  
また、8ページの『委員会レポート』に掲載しています。



# 議案をチェック

## ヒブワクチン接種や子宮頸がんのワクチン接種などに議論が集中!

◎ 向峠 茂人 議員

補正予算で子宮頸がんワクチン接種費用が全額補助となり喜ばしいことだが、対象者の年齢に制限があるのはなぜか。また、ワクチン接種推進を学校側に要請するのか。

◎ 健康福祉課長

効果的な予防面から、小学校6年生から中学校3年生までとした。PRについては、学校や保護者の方々にもしつかり周知したいと考えている。

◎ 向峠 茂人 議員

母子保健費の不育症治療費に60万円の予算があるが、何名分か。

◎ 健康福祉課長

一例につき30万円が限度額で2名分である。治療費相当分を助成する。

◎ 榑原 安弘 議員

能登町過疎地域自立促進計画の策定について、計画書作成までの経過と経緯の説明と過疎地域自立促進特別事業で2億100万円が補正してあるが、歳出の主なものは病院の1億3100万円だが、残りは何の事業か。

◎ 企画財政課長

計画書の作成の経過については、庁舎内で各課より策定委員1名を選定し、3回の会議を実施し計画を策定した。住民の意見も反映させるということで、町ホームページでパブリックコメント(※①)を募集し8月末に策定した。また、地域医療の確保を目的に病院費1億3100万円、その他にブルーベリー振興対策費、クロマールハナバチ飼育事業で3000万円、交通対策費で4000万円が主な歳出である。

◎ 菊田 俊夫 議員

住宅総務費耐震改良改修工事に120万円の計上があるが、対象住宅はどんな住宅なのか。

◎ 建設課長

民間の一般住宅の耐震化を促進するのが目的で昭和56年以前に建設された木造住宅が対象住宅費用は1件につき60万円を限度額で今回2件分の計上である。

◎ 菊田 俊夫 議員

補助を受ける時に所得制限はあるのか。

◎ 建設課長

給与所得の場合は、年間の収入が900万円以下の規定である。

◎ 石井 良明 議員

能登町障害者自立支援センター第7条の定員は現行20名だが、希望者の増加が見込まれる場合30名に出来ないか。

◎ 健康福祉課長

定員20名については、法的根拠がないので削除する。

◎ 南 正晴 議員

農地費の土地改良事業で委託料314万円の田園環境整備マスタープラン策定業務の中身について説明を。

◎ 農林水産課長

鮭尾地区の飲雑用水施設整備の採択条件に必要なとなる計画を策定するための委託料である。

◎ 鍛冶谷 眞一 議員

県支出金100%補助事業の児童福祉施設費の使い道は。

◎ 健康福祉課長

各保育所で保護者と子育て支援関係者等が参加する事業を行うための備品を購入する事業で、現在は各施設で調整している。

◎ 酒元 法子 議員

子宮頸がんワクチン接種費用の全額補助の決断は良いことだが、高校生以上の女性は補助対象者ではない。今後対象者を拡充する考えはないのか。

◎ 健康福祉課長

費用と予防効果を考えると小学校6年生から中学校3年生の年代の効果が高いと考えている。

◎ 志幸 松栄 議員

子宮頸がんの予防接種について接種を受ける病院に制限はないのか。能登町の病院に限るべきと考ええるが。

◎ 健康福祉課長

対象の医療機関の制限については、指定していない。本人の身体状況を理解されている医師のいる病院が最も適当であると考えている。

◎ 志幸 松栄 議員

町で予算化したので、能登町の病院に限るという規約をいれても良いのでは。また対象者の年齢制限も今後考える余地があるのでは。

◎ 町長

病院の指定については、掛かりつけ医的な地元病院での接種が多いと予測している。年齢については、最も効果的な年齢に限定したもの。将来的には年齢制限を取り払う方向に向かうかもしれないが、今はこれがベストと考えている。

【※① パブリックコメントとは】

公的な機関が、その影響が及ぶ対象者などの意見を事前に聴取し、その結果を反映させること。

# 総務

# 委員会

菊田俊夫（委員長）  
酒元法子（副委員長）  
山崎元英・新平悠紀夫  
山本一朗・向峠茂人

九月六日に委員会を開  
催し、付託された議案五  
件の審議結果は、全会一  
致で可決すべきものとし  
た。審査過程での主な審  
議内容は次のとおり。

## ○能登町営バス条例の 一部改正

昨年十月から実証運行  
していた駒渡線につい  
て、本年十月から駒渡線  
をうちうら線に改め、ス  
クールバス4路線を統合  
し、空白地区で四方山地  
区を延長し、合わせて5  
路線を町営バスとして運  
行するための条例整備。

## ○奥能登広域圏事務組合 規約の変更

奥能登広域圏の事務処  
理に、新たに広域公共交  
通に関する事務内容を追  
加する。組合の二市二町  
の公共交通に関する事務  
や住民はもとより旅行者  
の利便性等を考慮した公

## ○能登町過疎地域自立 促進計画の策定

法律が六年間延長さ  
れ、今回よりハード事業  
だけではなく、ソフト事  
業も対象となることにな  
った。質疑では、ソフト  
事業は対象の幅が広いの  
で対象となりそうな事業  
は網羅されているのかと  
の質問に、役場内で委員  
を選任し事業を網羅した  
との説明であった。

## ○町有地の無償譲渡

社会福祉法人「多花葉  
会」が使用している土地  
は旧柳田村時代に無償の  
議決を経ていたが、未登  
記のまま合併していた。  
今回再議決するものだ  
が、本来は旧柳田村時代  
に処理すべきであり、今  
後行政執行の際に注意す  
るようにとの意見があっ  
た。

# 教育民生

# 委員会

奥成壮三郎（委員長）  
南 正晴（副委員長）  
石井良明・久田良平  
宮田勝三・奥野 清  
椿原安弘

九月六日に委員会を開  
催し、付託された報告一  
件、議案四件の審議結果  
は全会一致で承認・可決  
すべきものとした。  
審査過程での主な審議  
内容などは次のとおり。

## ○補正予算（一般会計）

一般会計補正予算の予  
防費のヒブクチン接種  
助成金について、国から  
の助成金などはないの  
か、また強制接種なのか  
との質疑に、現在国から  
の補助はない。接種は、  
あくまで任意接種である  
との回答であった。

児童福祉施設費の備品  
購入事業について、その  
計画に対する質疑では、  
保育所と地域住民とのふ  
れあいのために必要な備  
品の購入費であり、詳細  
についてはこれから決め  
ていくとの回答であっ  
た。同事業については、

詳細が決まってから予算  
計上すべきではとの意見  
もあった。  
母子保健費の不妊症治  
療支援事業について六十  
万円は二名分なのかとの  
質疑に、二名分で、一例  
につき三十万円が限度額  
であるとの説明であった。

## ○能登町国民健康保険条 例の一部改正

また、学校建設費につ  
いて、学校の取付道路な  
どの計画はどうかという  
のかとの質疑に、学校  
建設費では、校門までの  
ところを計画とし、道路  
については建設課で対応  
していく予定との回答で  
あった。

関係法令の改正に伴  
い、能登町国民健康保険  
条例の一部を改正。

# 産業建設

# 委員会

河田信彰（委員長）  
鶴野幸一郎（副委員長）  
大谷内義一・多田喜一郎  
鍛冶谷眞一・石岡安雄  
志幸松栄

九月六日に委員会を開  
催し、付託された議案三  
件は全会一致で可決すべ  
きものとした。  
審査過程での主な審議  
内容などは次のとおり。

## ○補正予算（一般会計）

一般会計補正予算観光  
費について、ふるさと博  
はいつ終了するのかとの  
質疑に、今年から一月か  
ら三月まで冬のバージョ  
ンが始まるとの説明で  
あった。

農業振興費について、  
柳田食産の支援計画はど  
うなっているのかとの質  
疑に、まだ柳田食産から  
提出されていないとの説  
明であった。ブルーベ  
リーワインの売れ行きが  
激減している中、ビンの  
形状を変えてみる、C A  
S 冷凍を導入し生食の販  
路を拡大してはなどの意  
見もあった。

また、戸別所得補償制  
度の交付対象者数と交付  
面積の質疑に、8月末時  
点で交付対象面積は85  
0ヘクタールで対象者は  
1250戸であるとの説  
明であった。

都市環境整備事業費で  
公有財産購入費は何かと  
の質疑に、のと鉄道の宇  
出津駅跡地購入の予算で  
あるとの説明であった。  
また、民間の人はのと鉄  
道の線路敷を利用出来な  
いかとの質疑に、のと鉄  
道は民間に払い下げしな  
いとの回答であった。

## 編集委員

委員長 鶴野幸一郎  
副委員長 山本 一朗  
委員 石岡 安雄  
向峠 茂人  
南 正晴  
河田 信彰